

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	特定非営利活動法人 演劇倶楽部『座』
公演団体名	特定非営利活動法人 演劇倶楽部『座』

内容

当劇団は「美しい日本語を語る」ことを大切に考えておりますので、上演する劇中のセリフを使いながら「からだ全体を使って声を出す」「分かりやすい発音」「意味を正しく伝える方法」をゲーム形式で練習します。

(いくつかに分けたグループにそれぞれ助手をつけて丁寧な指導を行います。)

劇に参加する生徒さんは、ワークショップへの参加態度・成果を踏まえた上で、先生方にご相談して選ばせていただきます。

ことばを「正しく喋ろう」「分かりやすく喋ろう」「美しく喋ろう」と言うだけでは、子供たちはどうしてよいか分かりません。以下の方法を分かりやすく説明し、一緒に試してみ、『ことばを扱う基本』を身につけて貰いたいと思っております。

■身体や喉に力を入れたり口を大きく開いたりするのではなく、「身体全体を使った楽な呼吸と発声」(20分)

■「文中の最重要な単語(イントネーションアクセント)」を見つけ、「ニュアンス」を込めて語る(25分)

・コロナ対策として各地方自治体、学校の参加者の人数の制限に合わせて、実施します。派遣者は学校に入る前に、消毒、検温を実施します。

タイムスケジュール(標準)

各校に事前に実施開始時刻を調整させていただきます。原則的に午前午後どちらも可能です。開始後の大まかなタイムスケジュールは上述の通りです。

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

- ・指導者 1名
 - ・補助者 3名
 - ・事務局スタッフ 2名
- 計6名

学校における事前指導

各校毎に実施開始時刻について事前調整をします。原則的に午前午後いずれでも可能です。開始後のタイムスケジュールは上述の内容をもとに学校の状況を伺い準備を行います。服装に関しては、特に条件はございません。平服のままで結構です。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	特定非営利活動法人 演劇倶楽部『座』
公演団体名	特定非営利活動法人 演劇倶楽部『座』

<p>演目</p> <p>作: 浜田広介</p> <p>動物三部作</p> <p>「ある島のきつね」「泣いた赤おに」「りゅうの目のなみだ」</p> <p>構成・演出: 壤 晴彦 振付: 林 千永(日本舞踊林流千永派家元) 音楽・生演奏: 木村 俊介(三味線・笛・太鼓・琴・等)</p>
--

<p>派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください</p> <p>出演者: 14 名 スタッフ: 7 名 合計: 21 名</p>

タイムスケジュール (標準)				
前日仕込み	有	会場設営の所要時間	6	時間程度
※公演前日の搬入・設営と当日の設営で6時間、リハーサルと本番準備に2～3時間が必要です。				
当日到着	仕込み	本公演	撤去	退出
8時	8時～13時 (リハーサル・本準備含む)	14時～15時	15時～17時	17時
※演目の上演時間は、1時間です。途中休憩はありません。				

<p>実施校への協力依頼人員</p> <p>可能であれば、搬出入の際に機材運搬で数人。</p>
--

演目解説

「動物三部作」の主人公は人間ではありません。
「きつね」と「おに」と「りゅう」です。

「きつね」は、人間に好意的に接し、
「赤おに」は鬼が人間に嫌われていることを知りながら、人間と友達になりたいと思い、
「りゅう」は何も害をしない自分を悪者にする人間を深く恨み、山奥に籠っています。

作品ごとに「差別」の重さ・深さが異なりますが、全ての物語に作者の「愛」が注がれ、それぞれ印象的な「結末」に至る素晴らしい作品集です。

浜田広介の香り高い原文の全てをそのままに、「語り」のあるお芝居として、美しい邦楽生演奏と舞踊を織り交ぜて楽しんでいただけます。

古来、日本人の心情の際立った特徴は「弱いものへのいたわり」と言ってよいでしょう。

浜田広介作の『動物三部作』は、人間ではない「生きもの」たちを主人公に、世の中の「差別問題」を分かりやすく説いた「傑作」です。

現代・社会や組織、そして学校などでの「差別」や「いじめ」は看過できない社会問題であり、幼少年期にこの作品に触れて心震える体験は、必ずや子供たちの心に「思いやり」「優しさ」「いたわり」という『他者への理解と寛容』と『自省心』を根付かせるものと信じます。”

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

部作中の二作品『泣いた赤おに』『りゅうの目のなみだ』に登場する「村人」「町の人」に、それぞれ3人ずつ、生徒さんに参加してセリフを喋ってもらいます。

また『りゅうの目のなみだ』中、少年がりゅうに呼びかける声の「こだま」、そして、少年がりゅうの変身した大きな船に乗って町に還ってくる最終シーンの「驚き・喜びの声」は客席の生徒さん全員の協力をいただいて幕を下ろしたいと思います。

児童生徒とのふれあい

公演後に、出演者への質問会を実施します。

・コロナ対策として各地方自治体、学校の参加者の人数の制限に合わせて、実施します。

派遣者は公演会場の学校に入る前に消毒、検温を実施します。

本番中、演者以外のスタッフは、マスクを常時着用し、児童、生徒たちと一定の距離を保ち、万全の態勢で公演を操作してゆきます。

本番中以外は、演者もマスク着用を徹底します。

児童・生徒の皆さんがストレスなく鑑賞、体験して頂けますように、万全の注意をまいります。